クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.

ラン科

	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由
もともと稀産の植物であるが、園芸採取と山野の開発、里山の管理放棄などが主な原因となって、急激に減少し、非常に稀産の植物となっている。（現況：R－）

形　　態
日本には大別して4種のアツモリソウ属植物があるが、本県にはコアツモリソウ1種のみを除く3種が分布し、すべて絶滅危惧植物である。本種と近縁種との相違点は、まず、多数の平行脈を持つ葉が2枚で、アツモリソウの3～5枚と異なる。さらに、葉は本種のものは扇円形で先端は切形であるが、キバナノアツモリソウでは先端は尖形である。本種の花は球形で大きく、直径10cmに達するが、他種は3～5cm程度でより小さい。なお、本種の唇弁は、紅紫色の脈があって大きく、淡黄緑色の花被片とよい対比をなす。

国内分布
北海道西南部、本州、四国、九州に分布。さらに朝鮮、中国にも分布。

県内分布
現在は外浦区、中能登区のみ。

生態など
地生の多年生草本。開花期は4～5月頃。

生育環境
疎林の林床または草原に生育。特にスギ植林、モウソウチク植林などの竹林下に群生する。

危険要因
園芸採取、産地局限。

林　二良・2006 年 5 月 14 日・能登

分布図はありません。